学びの絆
学校支援ボランティア

登下校の安全を守る

木城小
木城町

黄色でひときわ目立つベストと帽子。信号が赤になり黄色い旗が掲げられると、児童は横断歩道を駆けて渡る。「おはよう」「今日も学校頑張って」。朝7時、木城町・木城小（野崎憲次校長、265人）近くの交差点で同町椎木の上田好昭さん(59)の声が響く。

上田さんは町内約100人が属するボランティア団体「木城っ子安全守る隊」の代表。児童が交通事故に遭わないようにと、メンバーは平日の朝7時から1時間、約20人で町内の交通量が多い所など16カ所に立って見守る。下校時にも約10人で同町椎木と高城にある児童館周辺に立つ。同校2年の徳田仁洸君(8)は「黄色い帽子を見るとほっとする」と感謝の意を述べる。

黄色い旗で児童が安全に横断歩道を渡れるよう誘導する上田さん（右）

活動を始めて6年目。子どもを狙った犯罪が全国的に増えたことを受け、町が「町民総ぐるみあいさつ運動」を始めたのがきっかけ。参加している大半が60歳以上で、児童と接することが生きがいだ。「子どもの笑顔に元気をもらえる」「素直な反応がかわいい」。メンバーはうれしそうに話す。

上田さんは「木城っ子応援隊」の代表も務める。応援隊は学校の一輪車のパンク修理や、壊れたリヤカーの補強などを行う。「修理した後日、お礼を言ってくれる子もいて、物を丁寧に扱うようになっているのでは」。メンバー約40人の思いを代弁する。

朝7時半、同校の教師が上田さんの元にぞくぞくと集まり、児童の見守りを共に始めた。野崎校長は「子どもと地域の方が毎日触れ合って、朝から町全体が明るくなる」と手応えを感じている。（次回は9日付日南・串間面に掲載）